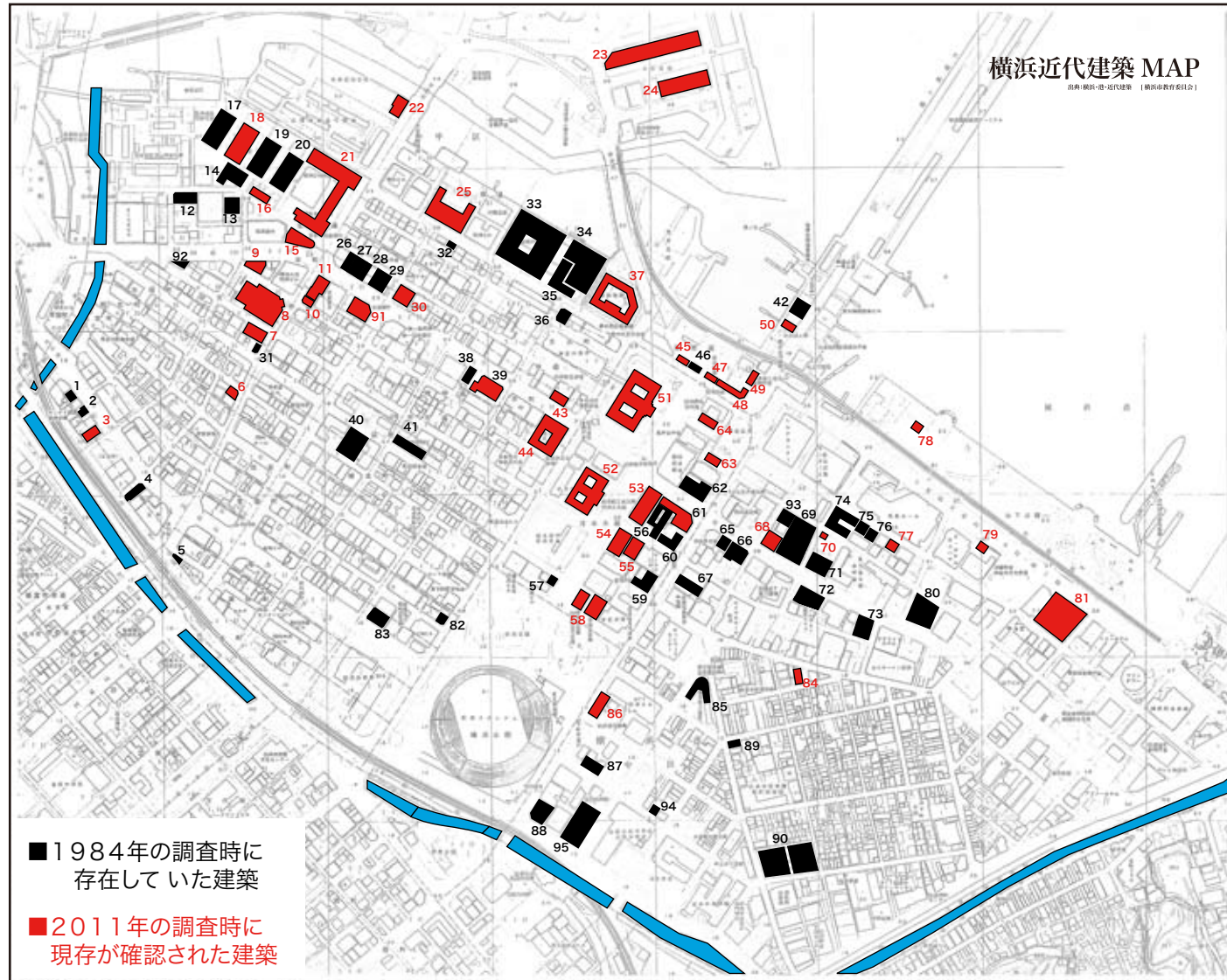


港町横浜の昔、今、そしてこれから

神奈川地域会の情報はこちら
<http://www.jia-kanto.org/kanagawa/>

一万人の世界建築家展
<http://www.10000architects.com/?jp>



【横 浜の歴史】

神奈川では、明治維新以降開港都市として横浜が県の中心となっています。江戸時代までは東京湾に面する一寒村であった横浜村を一変させたのは、江戸時代鎖国として国交を持たなかった日本にアメリカのペリー率いる黒船の来航です。幕府は、東海道を直結し当時栄えていた神奈川湊を避け、対岸の横浜村を開港しました。横浜村は幕府が設置した関所(運上所)を境に海側に外国人居留地を‘関内’として、各国の商館建設を許可して異国を感じる町ができました。それが今の関内地区の始まりです。横浜の歴史は開港とともに始まり、開港によるまちづくりのスタートとなるのです。

【関東大震災を乗り越えて・・】

1923年の関東大震災で横浜は壊滅的な被害を受け、異国の街並であった関内地区の領事館はほとんど倒壊しました。しかし震災後3ヶ月以内に復興計画が策定され、震災復興事業として瓦礫を埋め立てて山下公園が造成されました。震災前に建設された開港記念会館 ジャックの塔)と共に神奈川県庁舎 キングの塔) 横浜税関庁舎 クイーンズの塔)が建設され、横浜三塔と言われる現存する建物もこの時に建設されました。

【戦 災を乗り越えて・・】

昭和初期海運業の発展とともに横浜の町は栄えますが、再び第二次世界大戦の横浜大空襲で中央部の町は壊滅的な被害をうけ、さらに連合軍が税関ビル、ホテルニューグランドなどを軍事拠点とし横浜の戦災の復興は大幅に遅れました。しかし、1950年に横浜国際港都建設法が制定され、戦災の復興が一挙に進み建物建設が進みました。今回調査した復興建築はこの時期に建設されたものが多く、私たち横浜市民に“横浜らしい町”として今に繋がる横浜国際港都横浜の街を築き上げたのです。

【 関内地区に現存する歴史的建造物】

1984年神奈川県文化財調査報告書神 奈川県の現存近代洋風建造物目録」(神奈川県教育委員会)によると、関内地区には95棟の明治 大正 昭和初期の建造物が残っていました。2010年12月関内地区の歴史的建造物の現状を日本建築家協会神奈川地域会で調査し、保存 一部保存 復元(一部復元)も含め創建当時の面影が残っている建物43棟を確認しました。

【そしてこれから】

横浜は開港150年を超え、2度の大きな災害関東大震災・戦災を生き延びている建物を通して、開港都市である横浜らしさ＝横浜のアイデンティティーを守ってきています。

関内地区の取り壊された建物は、この26年間の中で歴史的建造物の半数以上52棟の建物が取り壊されました。中には、人知れず壊された建物、借しまれながらも経済的な問題、物理的な問題によって取り壊された建物も数知れません。現存している建物、取り壊された建物を見直すことは“そのまちらしさ”を探る事であり、街づくりの糸口となることでしょう。“そのまちらしさ”は住む人の原風景をつくり、それが“わたしのまち”となり、人はわか町に帰属するはず。私達は神奈川の建築家として、未来の人にも開港都市を育んできた“横浜らしい町”、横浜らしさのある町を伝えていきたいと思っています。

日本建築家協会神奈川地域会



写真 井上玄

新港埠頭煉瓦1号上屋



横浜税関本庁舎



横浜郵船



神奈川県庁舎